

内部障がい

内部障がいとは、心臓や腎臓、呼吸器、膀胱、直腸、小腸、肝臓のいずれかの障がい、あるいはヒト免疫不全ウイルス（HIV）による免疫機能の障がいの総称です。身体の中の障がいのため、外見からは病気なのか、元気なのかが分かりにくいということについて、周囲の人の理解が必要です。

一般に疲れやすく、長い時間立っていることや長い距離を歩くことが難しい状態です。見た目には健常な人と変わらないこともあります。中には鼻にチューブを通し、携帯用ポンペを台車に乗せて持ち歩いている人もいます。

困っていることを理解しましょう

疲れやすいので、乗り物に乗ったときは座りたいと思うものの、周りの人には障がいがあることが分からないので、席を譲ってもらえないことがあります。また、歩いている途中で休める場所がほしい、少しでも歩く距離を短くしたいと思っていますが、休む場所がない、建物から離れた場所にしか車を止められないということがしばしば起こります。頻繁にトイレに行く必要のある人、ベッドなどの設備が整ったトイレを必要としている人は、外出中も自分が使えるトイレがあるかどうか気になります。



エレベーターなどに満員のため乗れず長い間待っていたり、電車やバスなどで席を譲ってもらえず立ったままだったりすると、内部障がいのある人は疲れ切ってしまいます。



心臓ペースメーカーは、電磁波で誤作動を起こす可能性があるといわれています。

オストメイトとは、大腸がん、膀胱がんなどの治療のために、人工肛門、人工膀胱（ストーマ）を手術で腹部に造設した人のことをいいます。オストメイト対応のトイレは、全国各地の公共施設などに設置が進められています。



音声コード

